

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】（変更原案）」について、

学識経験を有する者、関係する住民等、関係都県から

いただいたご意見に対する関東地方整備局の考え方

本資料は、「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】（変更原案）」について学識経験を有する者、関係する住民等、関係都県からいただいたご意見に対する関東地方整備局の考え方を示したものです。

なお、できるだけわかりやすくご説明する観点から、いただいたご意見について、その論点を体系的にいただいたご意見の概要として整理したうえで、ご意見の概要ごとに関東地方整備局の考え方を示しております。このため、ご意見を提出していただいた方が指定した章節と、関東地方整備局の考え方を示した章節が一致していない場合があります。

国土交通省 関東地方整備局

章節	論点番号	いただいたご意見の概要	関東地方整備局の考え方
1. 2 治水の沿革	1	<ul style="list-style-type: none"> 過去の洪水における雨量の表記について 過去の洪水について、雨量を表記すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえて修正します。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 水位の表記について 過去の洪水状況における「警戒水位」という表記について、「はん濫注意水位」として理解されていることが多いため、併記すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の文言につきましては、ご意見を踏まえて修正します。
	3	<ul style="list-style-type: none"> 過去の災害における逃げ遅れの表記について 関東・東北豪雨では、逃げ遅れが課題であったため、ヘリコプターで救出された人数を示すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえて修正します。
1. 3 利水の沿革	4	<ul style="list-style-type: none"> 利水の沿革について 湧水は水源が涸れている状況を表す言葉であるため、「16回の取水制限が実施された」と記載すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の文言につきましては、ご意見を踏まえて修正します。
2. 3 河川環境の整備と保全に関する現状と課題	5	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境について 外来種の侵入、魚類等の移動の阻害となっている構造物についての指摘はあるが、それについての対処は取り上げられていない。 基準地点八斗島から利根大堰の湛水域上流端にかけてのハリエンジュの繁茂が記載されているが、それについての「対処」は取り上げられていない。 ラムサール条約湿地に登録された「渡良瀬遊水地」の自然保全について積極的な取り組みは高く評価されるが、「乾燥化」への具体的な対処について記述して欲しい。 稲戸井調節池での哺乳類・鳥類の保全について、具体的に記述して欲しい。 利根川下流部での高水敷の乾燥化による植生の単純化への対処について記述して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の保全と再生に関する事項については、変更原案「5.1.3河川環境の整備と保全に関する事項(2)自然環境の保全と再生」に記載しています。 なお、各箇所等における個別具体の対処については、必要に応じて学識経験者、流域住民、関係機関等と調整のうえ、実施することとしています。

章節	論点番号	いただいたご意見の概要	関東地方整備局の考え方
2. 5 新たな課題	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年の豪雨災害で明らかとなった課題について ・ 近年、過去の想定を超える集中豪雨等が増加し、今後そのような事象はさらに増加する可能性を考慮すると、気候変動による影響についての記述の充実及び近年の豪雨災害で明らかとなった課題の追加は適切なものである。 ・ 水防災意識社会や緊急行動計画といった「ソフト対策」の追記は重要であり、今後は具体的に実践を充実する必要がある。 ・ 「ハード対策」については気候変動を踏まえた考え方への転換には至っておらず、豪雨によるリスクだけに目を向け従来通りのインフラ整備を強化すると、別の社会的損失を招くことがあることに留意する必要がある。 ・ グリーンインフラ推進戦略（令和元年7月 国土交通省）では、気候変動や人口減少の進行が進む今後も日本において、既存インフラとグリーンインフラを相補的に活用することや、生態系を活かした防災・減災（Eco-DRR）がさらに重要になることが述べられており、これら自然を活かした防災・減災の価値についても明記すべきであるが、グリーンインフラの機能評価が現状不十分であるため、その重要性について言及すべき。 ・ 気候変動の影響が年々激しくなっており、整備計画においても、さらに臨機応変に対応可能なシステムの構築が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンインフラについては、ご意見を踏まえて修文します。 ・ ご意見の主旨については、治水、利水及び環境に關してはまだ脆弱な我が国の国土において、気候変動は大きな影響を及ぼしますが、信頼性の高い施設による安全性の確保を進めるとともに、社会条件の変化の中で地域づくりと一体となった流域における適応策を進める必要がある旨を原案「2.5新たな課題」に記載しています。

章節	論点番号	いただいたご意見の概要	関東地方整備局の考え方
5. 1. 1 洪水、津波、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藤原・奈良俣再編ダム再生事業について <ul style="list-style-type: none"> ・ 下流側の藤原ダムにおける治水容量の増加は、効果発現の安定性が向上するため好ましいが、下流側の藤原ダムにおける利水容量の減少は、運用上、十分な配慮をする必要がある。 ・ 藤原・奈良俣再編ダム再生事業では、更なる洪水調節機能の早期向上に努めて欲しい。 ・ 奈良俣ダム及び藤原ダムにおける事業実施後のダム上流湛水面の変化は、周辺樹林への影響が生じる可能性があるため予測評価しておくことが必要である。 ・ 奈良俣ダムと藤原ダムの容量の振り替えは非常に重要な事業であるため、進めて頂きたい。今後は、同様の事業を利根川上流ダム群を対象に展開し、インフラストックを最大限活かして欲しい。 ・ 洪水対策として洪水期前にダム水位を下げる方針には賛成であるが、6月後半から8月前半にかけては、鳥類の巣卵や雛への影響を避けるため、下流域での大幅な水位上昇を伴うような急激な放流はできるだけ避けて欲しい。そのために、可能な限り利根川河口部での潮の干満も考慮に入れ、ダムからの放流による河口付近の水位上昇が、大潮の満潮時刻に重ならないように配慮して欲しい。 ・ また、強い東風により河口付近が高潮状態となっている時も、放流増加はなるべく避けて欲しい。 ・ ダム内をえさ場として利用しているミサゴにとっては、ダム水位が下がることにより、どちらかと言えば餌確保の面で有利になる可能性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利水については、利根川上流ダム群の統合管理を行っていく中で、十分配慮しながら運用して参ります。 ・ 更なる洪水調節機能の向上については、今後も引き続き、検討及び調整を進めて参ります。 ・ 洪水期の制限水位が変更されるものであり、ダム貯水位の運用幅が変更されるものではないため、現状から大きな影響は無いものと考えています。 ・ 洪水調節機能の向上に向けた他施設への展開については、ダム再生ビジョン等の趣旨を踏まえ、調査・検討及び調整等を行って参ります。 ・ ダムにおいては、操作規則に基づき、下流の安全確保などのため、急激な水位上昇がないよう操作を行っているところです。引き続き操作規則に基づき、適切に操作を行って参ります。

章節	論点番号	いただいたご意見の概要	関東地方整備局の考え方
5. 1. 1 洪水、津波、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	8	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格堤防の整備（下妙典地区）に伴う自然環境への配慮について <ul style="list-style-type: none"> ・本事業によって堤内の植生の一部が攪乱されるが、隣接して残存する植生などの自然環境が同様であるため、昆虫相に及ぼす影響はきわめて軽微なもの様に思われる。また、残存する自然環境から昆虫が移入するなどして、昆虫相の回復も見込まれる。 ・本事業の整備地内を流下する小川における生物調査を行い、必要があれば保全を図って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格堤防の整備に当たっては、引き続き関係者と連携して自然環境の保全に努めます。 ・生物調査を望まれている小川は、現状において高潮堤防及び高規格堤防の整備予定範囲外であるため、当該事業による改変を予定していません。
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格堤防の整備（下妙典地区）の整備について <ul style="list-style-type: none"> ・本事業については、進捗率をあげて推進して欲しい。特に、防災拠点としての機能を充実させて欲しい。 ・本事業については、「未来へ向けての堤防のあり方」として積極的に取り組んで欲しい。 ・整備後の高規格堤防の活用について、公園などに加えて、農地、運動場、自然保護区、住居（高床式）など前向きに考えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格堤防の整備に当たっては、まちづくり構想や都市計画との調整を行うことが必要であり、関係者との調整状況を踏まえつつ順次事業を実施することとしています。 ・高規格堤防は、既につながっている堤防を強化するものであり、河川水の越流、浸透等に対する最善の強化手法であり、ひとつの区間が整備されただけでもその区間における堤防の安全性が格段に向上します。 ・また、幅の広い高台を確保できるため、洪水時の水防活動の拠点や避難場所等として活用することが可能になります。 ・なお、河川の整備に当たっては、引き続きコスト削減に努め、実施していきます。
5. 2. 1 洪水、津波、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	10	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂の除去や樹木の伐採における方法の記載について <ul style="list-style-type: none"> ・「規制緩和の拡大や制度の弾力的な運用による民間が有する力の活用を検討する。」について、具体的な内容が分かりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見の主旨については、「大規模広域豪雨を踏まえた水災害対策のあり方について 答申（平成30年12月）」に概要を記載していますが、具体的な内容については、今後検討して参ります。

章節	論点番号	いただいたご意見の概要	関東地方整備局の考え方
6. 1 流域全体を視野に入れた総合的な河川管理	11	<ul style="list-style-type: none"> 流域全体を視野に入れた総合的な河川管理について 地形、地質、生育している植物などが関係するため、92頁は「総合的な土砂管理の観点から、さまざまな要因と関連づけて流域における土砂移動の調査・研究に…」とすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の文言につきましては、ご意見を踏まえて修正します。
その他	12	<ul style="list-style-type: none"> 治水対策全般について 令和元年10月台風第19号による利根川河口部における被害の発生を踏まえて、治水対策を速やかに実施していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川の整備の実施に関する事項については、変更原案「5.1.1 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項」に記載していますが、関係機関と協議・調整の上、今後検討して参ります。
	13	<ul style="list-style-type: none"> 漁業関係者との調整について 県内河川湖沼において漁業等が営まれているため、関係者への十分な説明と理解を得るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 工事の実施にあたっては、関係機関と協議・調整の上、実施に努めてまいります。
	14	<ul style="list-style-type: none"> 表現の適正化について 39頁の「昨年発生した」は、基準年が不明であるため、削除すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の文言につきましては、ご意見を踏まえて修正します。
	15	<ul style="list-style-type: none"> 表現の適正化について 46頁は「ソフト対策を一体的・計画的に推進することを目的として、」とすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の文言につきましては、ご意見を踏まえて修正します。
	16	<ul style="list-style-type: none"> 表現の適正化について 本文中における「市区町」、「市区町村」、「市町村」の記載について統一すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の文言につきましては、ご意見を踏まえて修正します。
	17	<ul style="list-style-type: none"> 表現の適正化について 「取り組み」と「取組」などの用語を統一すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の文言につきましては、ご意見を踏まえて修正します。
	18	<ul style="list-style-type: none"> 表現の適正化について 「等」が何を指すか明確でないため、多用しない方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。